U.S. Indicators

発表日：2019 年 10 月 1 日（火）

米国 19 年 9 月 ISM 製造業景気指数は一段と悪化

～米製造業の縮小とGDPで 1.5%成長への鈍化を示す水準～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治（TEL：03-5221-5001）

ＩＳＭ製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
18/09	59.5	61.5	63.1	58.2	53.3	61.6	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.5	58.0	59.3	56.5	50.7	63.2	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	58.8	61.8	59.9	57.7	52.9	61.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.3	51.3	54.1	56.0	51.2	59.0	50.0	54.9	52.8	52.7
19/01	56.6	58.2	60.5	55.5	52.8	56.2	50.3	49.6	51.8	53.8
19/02	54.2	55.5	54.8	52.3	53.4	54.9	52.3	49.4	52.8	55.3
19/03	55.3	57.4	55.8	57.5	51.8	54.2	50.4	54.3	51.7	51.1
19/04	52.8	51.7	52.3	52.4	52.9	54.6	53.9	50.0	49.5	49.8
19/05	52.1	52.7	51.3	53.7	50.9	52.0	47.2	53.2	51.0	49.4
19/06	51.7	50.0	54.1	54.5	49.1	50.7	47.4	47.9	50.5	50.0
19/07	51.2	50.8	50.8	51.7	49.5	53.3	43.1	45.1	48.1	47.0
19/08	49.1	47.2	49.5	47.4	49.9	51.4	46.3	46.0	43.3	46.0
19/09	47.8	47.3	47.3	46.3	46.9	51.1	45.1	49.7	41.0	48.1

（出所） ＩＳＭ：the Institute for Supply Management

19 年９月のＩＳＭ製造業景気指数（季節調整値）は、47.8 と市場予想の 50 への上昇に反して前月比 1.3%ポイント低下し、９年６月の 46.3 以来の低い水準となった。米製造業活動は、世界景気の減速、トランプ政権による関税を利用した外交政策に伴う不確実性の高まり、関税引き上げを受けたサプライチェーンの見直し、労働力不足等によって鈍化傾向を辿り、９月に縮小幅を拡大した。９月はトランプ大統領が対中制裁関税第４弾を実施、中国も対抗措置をとるなど米中貿易戦争の深刻化の影響を受けたとみられる。

９月は、先行きの需要を示す新規受注が小幅上昇したものの、生産、労働需要の強さを示す雇用、在庫、入荷遅延が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注（前月比＋0.02%p）が小幅の押し上げ寄与となった一方、在庫（前月比▲0.60%p）、生産（前月比▲0.44%p）、雇用（前月比▲0.22%p）、入荷遅延（前月比▲0.06%p）が押し下げ寄与となった。

サブ項目では、主要国・地域の製造業活動の鈍化・縮小、世界的な輸出の減少の影響を受け、輸出受注ＤＩは 41.0 と大幅に低下し輸出の減少を示唆している。また、輸入ＤＩは 48.1 に上昇したが、50 を下回っており輸入の減少を示している。インフレ関連では、アルミニウム、段ボール箱、高密度ポリエチレン、スクラップ、木材パルプ、鉄鋼製品の価格下落などによって、仕入価格が 49.7 と 50 を下回っているが、前月から上昇しており川上での物価下落圧力が弱まっていることを示した。

９月のＩＳＭ製造業景気指数（季節調整値）は、総合指数を構成する新規受注、生産、雇用、在庫が拡大縮小の分岐点である 50 を下回り、製造業の縮小幅拡大を示す水準に低下した。また、９月に拡大した業種は 18 業種中３業種にとどまった（８月拡大した業種は 18 業種中９業種）。総合（全 18 業種、

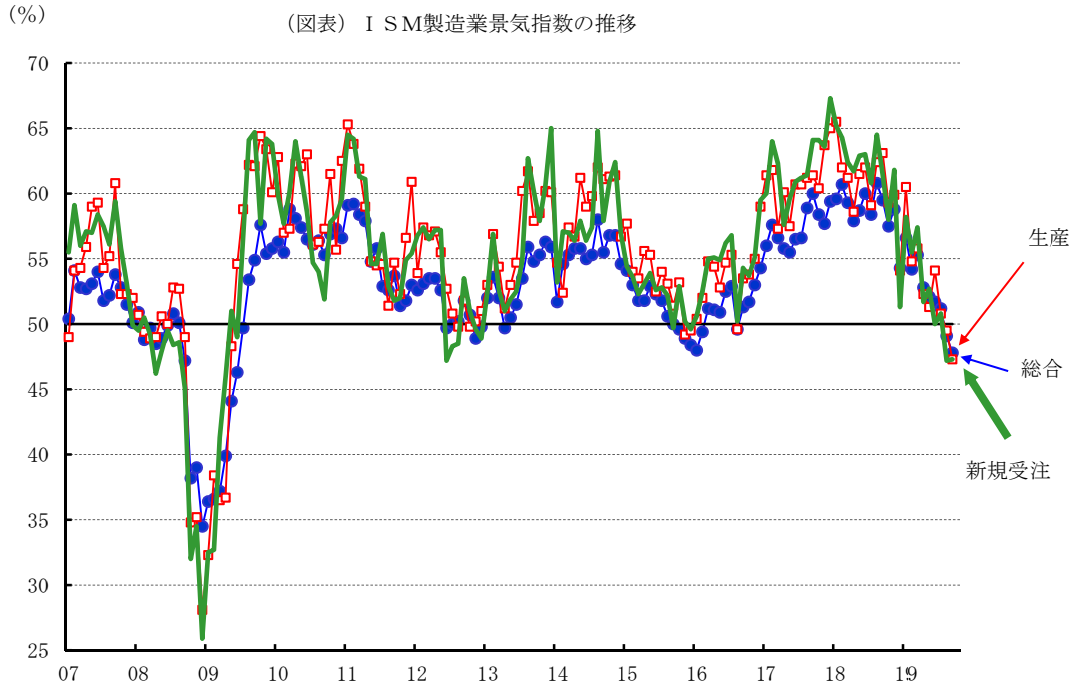
下線は拡大・縮小が２カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、その他製造業、食品・飲料・タバコ、化学製品の３業種と前月の９業種から大幅に減少した。

一方、縮小した業種は、アパレル、印刷・関連サポート活動、木材製品、電気設備・部品、繊維、紙製品、加工金属、プラスチック・ゴム、石油・石炭、一次金属、輸送機器、非鉄、一般機械、家具・同関連、コンピューター・電子機器の 15 業種と前月の７業種から急増し、多くの業種が縮小に転じた。

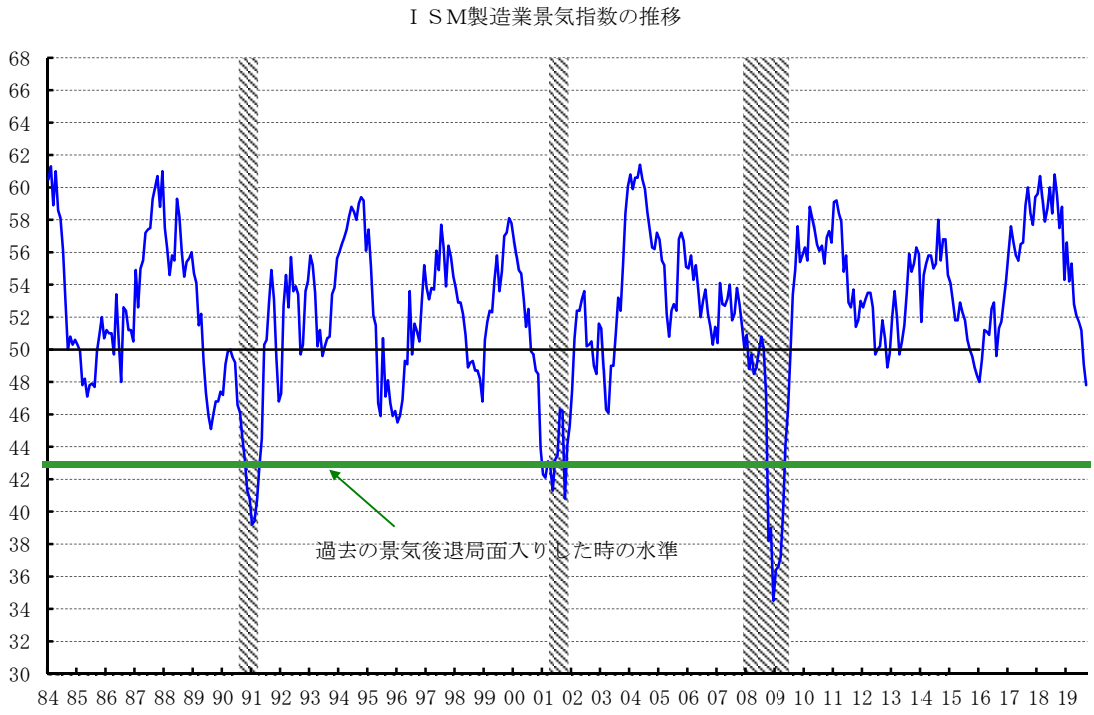
企業は、米中対立の深刻化による新規の輸出受注の一段の低下が示すように、米中の貿易戦争が引き続き重要な問題であると報告した。また、貿易戦争の影響を再び指摘する企業が増え始めた。拡大を続けている食品・飲料・タバコでさえ、中国製品への関税引き上げの影響を報告した。さらに、全般的に需要の鈍化を指摘する報告が増えた。

最後に、米経済全体とＩＳＭ製造業指数の関係をみる。ＩＳＭによると９月の 47.8 という水準はこれまでのＧＤＰ成長率との関係から、実質ＧＤＰが 1.5%成長（潜在成長率＋1.8%程度）していることを示すと指摘。製造業が一段と悪化するなか、米経済全体の減速に繋がり始めた。

（図表）ＩＳＭ製造業景気指数の推移



（出所）ＩＳＭデータより作成



（出所）ＩＳＭ　　（注）シャドー部は景気後退期。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。